

第7回こどもの創造的学びに関する研究会 議事要旨

1.開会

・座長より挨拶

2.報告

・資料④に基づき事務局より説明。

目指すこども像：各部会での議論を踏まえ、研究会として設定する目指すこども像としては以下を案として提案。「予測できない社会変化を前向きに乗り越える力」、「与えられたことを学ぶのではなく主体的に学び自ら解を見出す力」、「多様な人々と協働しながら新たな解や価値を創造する力」、「自ら生み出した解や価値を判断表現できる力」、「社会とつながり、社会を変えるというモチベーションを持っている」。

実験的プログラム企画案：今年度実施する実験的プログラムとして、「三宮こどもまちづくり会議 powered by VIVITA（令和2年2/15、2/16開催）」、「T-KIDS シェアスクール inKOBE（令和元年11月30日、12月1日開催）」実施に向けて検討を進めている実験的プログラムとして、「グローバルサイエンスキャンパス（GSC）との連携」、「U-15 ビジネスプランオーデイション」「空き家プロジェクト」について概要説明。

・教育委員会からの発信

現在神戸市立小学校において教員間のハラスメントの事案が起こっており、神戸の教育のみならず、神戸全体に対する信用を傷付け、また全国的にも教育への信頼を損ねている事に対してお詫び申し上げたい。どのように教育を立て直すか、教育委員会全体で取り組んでいるところである。色々な意味で前に歩み出しにくい状況ではあるが、研究会に参加させて頂き、昨年度はフィンランドやシンガポールにも行きネットワークもできてきたところである。神戸の子ども達をどう育てたいかということを中心に創造的な学びを学校教育に取り入れられないか考えていきたい。総合的学習については既にかリキュラム自体はがっちりあるので、そういった面をクリアしながらやっていきたい。現場の先生も巻き込んで、何とか神戸の子ども達により創造的な学びを届けていきたい。教員へのアンケートの依頼もあり調整していたが、こういった状況で学校現場も非常に混乱しており、もう少し落ち着いたら、教員へのアンケートを実施しながら検討をすすめていきたい。

3.ディスカッション

・【テーマ1】実験的プログラムの企画案について

事務局：本日欠席の委員から実験的プログラムの企画内容にご意見を頂いているので紹介したい。三宮こどもまちづくり会議について。三宮再整備という神戸ならではのテーマを通して、都市計画に子どもたちが関わる機会は貴重であり、企画としておもしろい。U-15 ビジネスオーデイションについて。小さなことでも問題を見つけてくる能力が大切。U-15についても、ビジネスや社会課題に加えて、日常の中にある小さな問題や課題に対するアイデア（日常の中でのイノベーション）もテーマにするとういのではないか。例えば学校の中や地域を舞台にしたもの。その中で、「最近なにか提案した？」みたいな会話が子供たちの中で生まれてくると凄いいし、そこまでの土壌ができれば他都市に模倣されない。空き家プロジェクトについて。「つくる」がテーマとなる企画は多いが、「解体する」という切り口もあると思う。過去の実践として、PC や掃除機の解体をして、また組み立てるといった企画をしたことがある。構造を体験的に理解してから、理論を学び、能動的な学習に繋げる。神戸のものづくり企業とつなげると神戸らしさが出るのではないか。

- 委員：大人のテーマ設定はあるが、子どもにはどのようなテーマを設定するのか。工作で終わるのではなく、仲間を作るというテーマがあっても良い。
- 委員：昨年度の VIVISTOP は子どもが好きに色々なことができる環境をつくるということに主眼を置いていたが、今年はまだ少しテーマを決めてやりたい。まちづくりをテーマにしたワークショップについては VIVITA でも何回かやっている。柏の葉で実施した時には、「まちづくりの研究者をたくさん集めて、研究の拠点にしていきたい」という、20~30年後の柏市のまちづくりの考え方と現在の進捗を聞いた上で、子どもたちがもし将来研究者だったらこの街がどうなっていたらいいかということテーマにした。六本木でも再開発をしている森ビルと連携したワークショップを今年の夏に実施している。三宮子どもまちづくり会議についても、どのようなテーマでどのように実施していくかはこれからだが、自分たちの好きなものを自由に色々なものをつくるというよりは、神戸市のまちづくりの考え方がまずあって、その上で子ども達がそれに対してどう考えるかということに基づいていく。神戸のまちづくりがどんな経緯、どんな思いで実施されているのを知った上で、これから先の未来を子どもの自由な発想で考え、形にしていくという内容で考えている。
- 事務局：三宮のまちづくりについては将来の構想はあって、新しくなることが決まったところもあるが、決まってないところもたくさんある。その部分について、どうしたいかということ子ども視点で考えてもらう。
- 座長：仲間づくりという視点での意見もあったが、チームでの活動もあるのか。
- 委員：昼5 昼分の模型を制作したが、つくるエリアでグループに分かれて活動をおこなった。
- 委員：ヘルシンキでも子どもたちによるまちづくりのワークショップを実施している。一番大事なものは「30 年後」、「三宮」ということを子供たちに提示し、そこから発想を膨らませて、子ども自身が定義づけして、チームで議論して、ものをつくっていくということであり、それが創造性だと思う。現在の学校教育ではなかなかそこまでできない。ただ時間に制限があり、長いこと議論している時間もないと思うので、そこをどう進めていくかということだと思う。
- 委員：具体的なところはこれから詰めていくことになると思うが、子どもが参画できるということはすぐいいと思っている。昨年度も子どもの創造性について、大人だけが考えて、子どもに提供するという事に違和感があった。対象は小学校高学年以上になるかもしれないが、与えられたものをやるのではなく、中身についても子どもたちも一緒になって考えていくことが、創造的な学びを実現する上で大切だと考える。三宮再整備についても、20 年後~30 年後に子どもたちが三宮で生きているわけなので、子どもたちが関わってほしい。須磨水についても子ども達がどのように考えるか聞いてみたい。
- 委員：子どもたちの成長につながっていくためには、ディスカッションをどう充実させていくかが重要。「何故これをつくったのか」や「これからどうしていくのか」等、ディスカッションをより充実させていくことで、子どもたちが中学校、高校とずっと考え続けることにつながると思う。
- 委員：なんでも作っていいよということだと、遊園地があちこちできてしまう。何かしらの自分なりの課題設定ができることが重要。三宮は住むというより商業エリアなので、自分が住む、生活するエリアに絞って実施することも考えられる。
- 委員：VIVISTOP については前回の部会でも常設を検討したいという事で検討を進めているが、昨年度は子ども達それぞれが自由な活動を行い、社会と関わるといったことやチームという部分は要素としては少なかった。コミュニケーションやリーダーシップという話では、筋電義手の実験的プログラムを実施した時に、我々が当初計画していた以上にコミュニケーションやリーダーシップが見られた。今回の VIVISTOP ではそれにも期待したい。2 日間で作って終わりではなく、ゴールデンウィーク中に実験都市をテーマとした 078 が開催されるが、そのイベントの際に子どもまちづくり会議の続きができれば広がりがあると考えている。また三宮だけでなく、自分の住む街ということでは各区や地域を舞台とすることも、次の展開として考えていきたい。
- 委員：三宮はどの範囲を指すのか。
- 委員：これから検討することになるが、模型制作のことも考えると、現実的にはある程度絞ることになると思う。
- 委員：まちの機能として捉えると港についても考える必要がある。

委員：神戸ポート博覧会の際に、複数の小学校が集まって未来のまちづくり会議をやった。テーマは小学校を中心としたまちづくりということだったと思う。こどもの観点でいうと、学校はこどもの生活の中心となっており具体的に考えられるが、三宮をテーマにしてどこまで考えられるか留意する必要がある。また、どのようなメディアにするかは検討が必要だが、例えば取り組みについて本にまとめるなど、こども達の記憶に後々まで残る方法も考えていくと面白いと思う。

委員：2日間参加することが参加条件となっているが、基本はこどもがまた明日やりたいと思って主体的に参加することが重要。また、どんなものをつくるかということもそうだが、どんな街にするかイメージを膨らませることが大事なのか、完成度の高い模型を作るプロセスで技術的なことを学ぶことが大事なのか、それぞれ違うと思うので、テーマが広がりすぎないようにしていく必要がある。

委員：その通りだと思う。2日間通うことを条件とするのは悩ましいところだが、ただ物理的に2日間かかってしまうくらいの内容がある。2日間いないと完成まで見られないので、2日間通える子どもに来てほしい。先ほど何も言わないと遊園地ばかりできるという話もあったが、柏の葉で実施した際も、科学者の街をつくろうと言っていても遊園地ができた。ただなぜ遊園地をつくりたいのか子どもに聞いたら、科学者にも遊び心と心の安らぎが必要だからということだった。子どもがそれを作りたい理屈が、大人の押し付けでなく、子どもなりの正当性があるものであれば、ちゃんと形にしていくということはやっていきたい。最終的に出来上がる街が、大人から見ているというよりは、子どもから見ているという街になってほしい。あとは最後のアウトプットのところをしっかりと神戸市として評価することが重要。まわりの大人が認めてくれないと、今後まちづくりに関心を持続するという事にならない。完成度に関しては、こどもがイメージできるレベルで仕上げるというよりは、みんなでもすごいものができたところには持っていきたいので、建築を学んでいる大学生と一緒に取り組むということと、下地作りのところをしっかりとやっていきたい。神戸の建築系の大学生にも参加してもらえると良い。

事務局：理想としては子どもたちが自分たちで考えた街と共に育って行って、将来的にも神戸のまちづくりに参加して欲しい。

委員：子どもたちは三宮を住む地域だとは認識していない。都市型機能として考えることはできるが、住む街として考えるのは難しいのではないかな。また保護者の目線でいうと、こういったイベントに参加する家庭の保護者は既に TOPGUN に目線が向いている。一方で EVERYONE において育てていくという観点を持つのであれば、イベントに来ない家庭の保護者にもどう発信していくかが重要。すでに研究会を2年間実施しているので、テストマーケティング的に実施するにしても、そういった層に考えや取り組んでいることをしっかりと発信することを考えていかなければいけない。

U-15 ビジネスオーデイション

委員：なぜ対象が U-15 なのか。

事務局：対象については今後決定していきたいと考えているが、現在のところ小中学校を対象という事としている。

委員：12歳と15歳では仕上がりが大きく異なる。また18歳以下の世代が入っていないのはなぜか。18歳になるとかなりしっかりしたものが出てくる。TOPGUN とはいえ多数の人に応募してもらうためには、世代を切って実施する方法も考えられるのではないかな。

事務局：市役所内に16歳以上が参加できる起業支援事業はあり、15歳以下は空白になっているのが現状である。市内のそういった事業ともできれば連携を図ることができればと考えている。

グローバルサイエンスキャンパスと連携

委員：現在神戸大学と協議をして検討を進めており、具体的内容はこれから。過去に科学館に通っていた中学生がグローバルサイエンスキャンパスのプログラムに参加していた。コンテンツとしてグローバルサイエンスキャンパスに参加していた先輩の研究内容等の話を聞き、「あんな風になりたい」という憧れを持つという意味では、EVERYONE の要素もあると考えている。

- 座 長：TOPGUN か EVERYONE かという話はあるにせよ、同じ神戸の中 3 の子の活躍を見て、下の世代の子達が「あんな風になりたい」という憧れを持つのは重要な効果だと思う。
- 委 員：TOPGUN を育てるという意味では、例えば去年の VIVISTOP とか筋電義手に参加した子ですごく目立っていた子の保護者に直接声をかけ、プログラムに参加してもらうことは難しいのか。
- 事 務 局：案内を承諾している保護者には連絡することは可能である。
- 委 員：TOPGUN の候補となる子は、去年の VIVISTOP 等で見られていた。そういった子を困っていく下地をつくっていくことも TOPGUN としての役割ではないか。保護者への継続的な発信も重要である。また神戸市で TOPGUN の分野を限定してしまうのは違うと思う。個性に合わせて様々な分野があっていいと思う。
- 委 員：学校で実施する夏休みの子ども達の自由研究、新聞づくり、工作等を見ている、すごい視点で取り組んでいる子もいる。担任の先生だけでなく、様々な大人がそれを見て、その先の興味関心に繋げてあげられるような仕組みがあり、すべての子ども達に道筋をつけてあげることができるとよい。
- 委 員：理科展の優秀作品については追跡しているのか。
- 委 員：現状はできていない。学校教育の枠を超えた作品があるのも確かである。

・【テーマ 2】目指す子ども像について

- 委 員：公教育の考え方として、突飛な事を認めにくい。TOPGUN の意見の中にも飛び級を認める教育特区というものがあったのと同様に、飛びぬけている子がいて OK という価値観が根付いていかないと、創造性を育てていく、TOPGUN を育てていくということになっていかない。学校教育の中において突飛な考え方を認める教育的価値観に転換していく必要がある。
- 委 員：理想は分かるが、学校現場が変わるのは無理である。特区に関しても、政治的な絡みもあるものなので、現実的に実現するのは厳しい。
- 委 員：国は現状を変えるという意思は持っている。初等中等教育の先生方が何を見ているかという、大学受験に成功させればお役御免ということ。大学受験を変えれば、初等中等教育も方向性が変わるだろうということ国はやっている。文部科学省のイノベーション専門官が神戸に来られた際の資料を見たが、教育に関して国が計画している内容は、AI 教育を小学校に導入する等、もはや SF の世界だった。危機感としてはそれぐらいのものを持っている。都心再整備でバスターミナルの建設計画があるが、バスターミナルができて 5 年ぐらいいたら、バスターミナルはいらなくなる。50 人である大きな鉄の塊をシェアする、コストの高い運転手の費用を 50 人でシェアするモデルがくずれていく。それぐらいの社会変化がはじまっている。我々も今の閉そく感の中で、クレイジー級という発想が抜けているのではないかと。
- 委 員：SF 的発想が大事。もともと SF と言われていたことが今どんどん現実になっている。当時 SF だと思われていたが、そういう未来を思い描いた人がいるからそこに近づくことができた。一部の子だけを突出して伸ばすことは公教育の中では難しい。その発想を持って何かできないかという思いでこの研究会に参加している。今研究会の委員が取り組んでいること等を加工したら、総合的な学習の中に位置づかないかと考えている。そもそも文科省が定めた目指す子ども像がある中で、それ以外のものを目指していくのであれば、神戸としてどんな子ども像を目指してやっていくのかがいる。そこで、AI が出てくるであろう未来を担う子どもにどんな能力がいるのか整理しようとしている。シンガポールやケープタウン、フィンランドの人と話をしたところ、必要な資質はイマジネーション、コミュニケーション、クリエイティビティということだった。もう一つ大きな段階としてそういった子を育てようとしたときに何ができるかということで、現在研究会で議論しているプログラムを加工してできないかということで動きは始めている。局内でコンセンサスをとれているわけではないが、公教育としてはそこまで突出する訳ではないが、未来志向の学力観を基にやっていきたい。
- 委 員：せっかく集まっているのだから、凝り固まったアイデアではなく、小学校でもこういうことができるということを言えるようにしていきたい。
- 座 長：数年後には運転手がいなくなるかもしれないという現実を、子ども達は実は見通しているかもしれない。
- 委 員：先ほどあったイマジネーション、コミュニケーション、クリエイティビティを突き動かすものは何かというと、欲求ということだと

思う。欲求にも方向があるので、SDGs であったり、ポジティブで心地よく面白いという方向の欲求をどんどん開花させていくというだけでいいと思う。その肯定が根っこで一番欠けているように思う。この研究会の中でさえもそう思う。そういう考えで、クレイジー、欲求、WANTS というキーワードを提案している却下されているようだ。AI 時代において重要なのは、欲求を人前にさらけ出していいということ。オープンに議論できる事が重要である。研究会もこれだけの委員に参加頂いている中ではあるが、あまりきれいにまとめるのではなく、「やる」ということを、研究会としても提言していきたいが、神戸市としても実行していくという一致がないと形だけのものになる。

・【テーマ3】研究会としての情報発信について

事務局：こどもの創造的学びの重要性をより多くの人に知っていただく上で、どのような手段が考えられるかご意見を頂きたい。

事務局：先ほど三宮こどもまちづくり会議の部分でも触れたが、078 で 2 月に実験的プログラムとしてやったものの続きや発表を行い、参画を広げるというのが一つ考えられる。また U-15 オーディションについても、参加者のプレゼンを 078 のイベントの中で行うことも考えられる。

事務局：078 の実行委員会が昨日あり、そこでは議題にはならなかったが、078 のテーマの一つとして教育を扱ってはどうかということで、鈴木寛氏をプロデューサーに迎えて、こどもの創造的学びに関する研究会と連携したイベントを開催する等のアイデアも出ている。発信については、市長が神戸の重要な 3 つの施策のうちの一つが教育だと様々な場所で発信する状態にすることが一番発信力が強いと思う。そうなると教育委員会だけでなく、様々な部局が教育を意識して行動するようになる。研究会が扱うテーマはそれぐらい大きいものだと思う。

座長：是非そういう風に持っていきたい。

事務局：市役所だけでなく、産官学でムーブメントを起こす必要がある。先日小学校の PTA 連合会役員会で研究会の紹介をしたが、是非今やっているような取り組みの話を保護者に発信してほしいというリクエストがあった。来年度は研究会で実施している取り組みをどんどん広げていくためのきっかけとして、年度当初の 078 が活用できればと思う。行政だけでなく、それぞれの機関でも発信していければと思う。

委員：具体的な企画も大事だが、研究会でこういった議論をしているということと現場の先生方はほとんど知らない。本当に TOPGUN の人材を育てていこうとすると、もっとエネルギーが必要である。大学に進学するときに神戸から出ていく、社会に出ていくときに神戸の特性がある中で、子どもたちも先生方もトップが見えづらくなっている。EVERYONE、TOPGUN 共に育てられない中で、何か方策を考えるということでこの 2 年間やってきたが、成果はなくていいのか、方向性をつけなくていいのか。

座長：我々としてはしっかりと議論をしていこうということを重視している。あまり成果を強調することで、何かに偏ってしまったり、お仕着せのようなことになってしまうことは避けたい。とはいいつつも、これだけ貴重なご意見を頂いているので、しっかりとロードマップを作っていきたい。今の想定では来年度にロードマップをつくるという計画でいる。あまり無理に成果を出すというものではない。

委員：学校の先生との関係については、私は無視している。学校の先生が知っていようが、知ってまいが、子ども達に届けばよい。本当に創造的人材を育てようと思ったら、そこに引っ張られるとできない。

委員：TOPGUN 的な発想で学校現場に何とかしろと言わせてもできない。では公教育では何を行うのか。公教育で行えるのは、「社会とつながり、社会を変えるというモチベーションを持つ」ということの芽を育てるぐらい。それがさらに学校の外で行われることと結びついて、芽が開いていけば TOPGUN につながっていく。役割分担はあると思う。

委員：成果という話があったが、成果は 10 年、20 年後にしか出ない。現時点では、具体的に取り組みを始める、やり続けるということ自体が成果ではないか。

委員：それでいいのか研究会全体で議論する必要があると思う。

委員：神戸の子どもたちがどこを目指すのかということが研究会としての成果物になるのではないか。その上で、変化に強くなる、変化に対応する力が重要である。なぜ今こんな風になっているかという、未来を予測する、未来を学ぶ機会が激減しているからだと思う。昔は未来はこう進むんだということが予測できたが、今は IC チップや PC になってしまい、目

に見える形ではない。色々な教育の機会で10年後、20年後、30年度の社会がどうなっているか伝えていく。未来を想像する力、未来を知る、未来を学ぶということが、目指すべき子ども像の中に必要なのではないか。今は作業をどうやってこなすかということに重点化されて、全体像が見えないからクリエイティブに創造することが全然ない。未来を予測する力を目指す子ども像の中に入れることを提案したい。

委員：学校現場にも既に学校とPTAが頑張っているところがある。研究会として情報の収集がまだまだできていない。研究会として何かを実践していくことだけでなく、現場で埋もれている実践を外に出して、市民にも議論に参加できるようにしていく。こどもの創造的学びに関する情報発信のための、情報収集機関という位置づけも大切だと思う。そういう意味で小学校の先生へのアプローチが少ないことは気になっている。

委員：うまくいかないという事を勘定に入れられる子を育てていく必要がある。前向きな失敗体験を学校でもさせづらくなっており、そういったところを学校外でも補ってもらえると良い。予測不可能ということが本当であれば、その中でうまくいかないことも出てくる。その中で再チャレンジができる子どもたちが必要だし、それができる社会にしていけないといけな

委員：市として重点施策トップ3くらいになっていかないと変わるものも変えられない。教育特区の話もしたが、大阪市はこの4月から実際に教育特区を設定している。確かに政治的な力が働いていると思うが、教育にネガティブな要素が多いこのタイミングだからこそ、やるんだということを発信していく。そういう状況になれば、この研究会における議論ももっと突き出した発想もやっていこうという風になる。

委員：映画“Most Likely to Succeed”はサンディエゴの凄い高校の実験を題材にしているが、彼らが言っているのは、これを世界モデルにしたいということではなく、何が正解か分からないから色々な実験が巻き起こることを期待しているということだ。映画を見た後に自分たちの街はどうかということを議論することを狙っている。最近市長が新産業領域で実験都市ということを言われるが、教育においても正解というものはないので、社会変化が激しいのだから、色々な実験をしていくというメッセージは今日ここで議論したことの延長線上にあると思う。

4.まとめ

事務局：今後の予定については3月に第8回研究会を開催したいと考えている。実験的プログラムについては随時案内をお送りするので都合が合えば参加をいただきたい。

事務局：今日頂いたご意見を踏まえて事務局において整理させていただく。昨年度の段階で学校と学校外の関係はインタラクティブな関係で、資料④P4にあるように研究会としては学校外の部分について検討するという事で一旦整理をさせて頂いた。学校の状況を知っておくことはもちろん大事ではあるが、議論が立ち戻ってしまっている気がしているので、再度各委員に確認させていただく。キーワードについては現在「本物と出会える」、「発見する・気づく」、「自分で決める・挑戦する」、「つながる」、「あまねく可能性を広げる・能力を無限に伸ばせる」といった形でまとめているが、福岡委員が提案頂いた WANTS についてはキーワードに追加したい。また目指す子ども像の部分で、山本委員から提案頂いた「未来」に関する内容も現在無いので入れ込みたい。またこれまでの議論を踏まえて今後何をしていくのかについては、来年度ちびっこうべもあり一つの節目の年となるので、事務局より考え方をお送りした上で3月の研究会を開催したい。